

令和8年度第2回 感染症発生動向調査協議会

令和8年5月20日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、和泉 孝治（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2026年第14週～18週・4月）

<全数把握対象疾患>

2類

- 結核が21例報告あり（本年累計の対前年同期比84.5%）。発症者14例のうち4例は40歳未満（20歳代2例、30歳代2例）だが、他の10例は60歳以上（60歳代1例、70歳代1例、80歳代4例、90歳以上4例）であった。

3類

- 腸管出血性大腸菌感染症が第14週、第15週に計5例報告あり（本年累計の対前年比350%）。

4類

- E型肝炎が4例報告あり（本年累計は6例で、対前年比150%）。
- レジオネラ症が2例報告あり（本年累計の対前年比62.5%）。
- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が1例報告あり（本県2例目）。
- A型肝炎が1例報告あり。

5類

- 侵襲性肺炎球菌感染症が10例報告あり（本年累計の対前年比122.2%）。5～9歳1例（ワクチン4回接種）、60歳代2例、70歳代5例（うち1例はワクチン接種歴あり）、80歳代2例であった。
- 百日咳が5例報告あり（本年累計の対前年比26.4%）。内訳は、1～4歳、5～9歳、10～15歳、40歳代、80歳代、各1例ずつであった（9歳までの2例はワクチン接種歴4回、他の3例は不明）。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が3例報告あり（本年累計の対前年比83.3%）。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症が3例報告あり（本年累計の対前年比133.3%）。
- 水痘（入院例）が3例報告あり（本年累計の対前年比100%）。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症が2例報告あり（本年累計の対前年比300%）。病原体検出情報では、4月に検査された4例中2例がNDM型メタロ-β-ラクタマーゼ産生大腸菌であった。
- その他、侵襲性髄膜炎菌感染症（一昨年1例、昨年報告なし）、アメーバ赤痢、後天性免疫不全症候群（無症候性キャリア、30歳代男性）、多剤耐性緑膿菌感染症（本年4月より全数把握）が、各1例ずつ報告あり。病原体検出情報では、侵襲性髄膜炎菌感染症の起因菌は血清群Yであった。
- 梅毒が9例報告あり（本年累計の対前年比81.0%）。うち男性6例はすべて早期顕症（20歳代3例、30歳代1例、50歳代2例）である一方、女性は1例が早期顕症、2例が無症候（3例とも20歳代）であった。

(STI)

- 梅毒の報告が9例あり、男性6例は20歳代から50歳代、女性は3例全てが20歳代であり、これまでの傾向と同様であった。前年度の患者報告数が例年より多かったことから、本年累計の対前年比は81.0%に留まっているが、対前々年度比では124.4%となっている。
- 後天性免疫不全症候群の報告は無症候性キャリアの1例であった。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは、16週以降、定点あたり報告数1未満で推移した（前月比15.6%、対前年同期比94.2%、対前々年同期比62.0%）。
- ・ 新型コロナウイルス感染症は、定点あたり報告数0.3～0.5の間で推移した（前月比41.2%、対前年同期比15.9%、対前々年同期比9.9%）。
- ・ 急性呼吸器感染症（ARI）は、定点あたり報告数33.6～39.9の間で推移した（前月比90.2%）。病原体検出情報では、検出されたものの中ではヒトメタニューモウイルスが最も多かった。
- ・ RSウイルス感染症は、定点あたり報告数0.2～0.4の間で推移した（前月比69.7%、対前年同期比37.5%、対前々年同期比36.8%）。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたり報告数1.4（第14週）から2.0（第18週）と増加傾向がみられた（前月比113.7%、対前年同期比144.8%、対前々年同期比74.4%）。
- ・ 感染性胃腸炎は、定点あたり報告数6.5（第18週）～11.7（第16週）の間で推移した（前月比107.8%、対前年同期比138.4%、対前々年同期比423.3%）。
- ・ 水痘は、定点あたり報告数0.2～0.4の間で推移した（前月比282.1%、対前年同期比347.4%、対前々年同期比692.2%）。

(STI)

- ・ 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症は、前年同期より若干減少している。
- ・ 尖圭コンジローマは、前年同期より若干増加している。

2 検討すべき課題

- ・ 昨年度の定点把握対象疾患の定点数の変更の影響について
 - － 飛騨圏域（小児科定点数2）：RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、など
- ・ 急性呼吸器感染症（ARI）の報告状況・課題について
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の届出基準の変更による影響について
- ・ 稀な疾患への対応について
 - － 県民、医療者等への情報提供（かわら版、医療関係者向け感染症疫学情報、など）

3 情報提供すべき事項

- ・ 病原体検出情報について
 - － ARIからの検出病原体、百日咳菌におけるマクロライド耐性、など
- ・ 「疑似症」の定義・届出基準などについて（確認）

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 第100回日本感染症学会総会・学術講演会（5月22日～24日、東京フォーラム）
 - － （緊急セミナー）ハンタウイルス感染症 これまでに分かっていること
5月23日（土）17時30分～18時（ライブ配信あり）